

2 ライフステージに応じて求められる資質・能力

自分の目指す教職員像を明らかにするとともに、そのために必要となる資質・能力を考える際には、ライフステージに応じて求められる資質・能力を考えることが大切です。

区分	年齢	ライフステージ ※ () 内は、経験年数	特に求められる資質・能力	
若手教職員	20歳代 ～	■能力育成期（1年～5年） ・教職員として必要な基礎的・基本的な能力を身に付けていく。 ・様々な業務に積極的にチャレンジする。	コミュニケーション力	相手の考えをよく聞き自分の考えを分かりやすく伝えることができる。
			基礎的な授業力	ねらいに沿って分かりやすい授業を行うことができる。
	30歳代前半	■能力拡充期（6年～10年） ・教職員として必要な基礎的・基本的な能力を確立する。 ・専門性を深め、得意分野を伸ばす。	素直さ・謙虚さ	管理職や同僚からの助言を受けて行動に移すことができる。
			学ぶ意欲	専門性や幅広い教養などを身に付けようと自ら学ぼうとする。
			チャレンジ精神	困難なことにも前向きにチャレンジすることができる。
			積極性	何事にも積極的に取り組むことができる。
中堅教職員	30歳代後半 ～	■能力発揮期Ⅰ（11年～20年） ・教職員としての専門性を発揮し、組織のミドルリーダーとして活躍するための能力を身に付ける。 ・自身のキャリアプランを確立する。	情熱	子どもに愛情をもち教育に対する情熱と使命感をもっている。
			危機管理やコンプライアンス意識の徹底	緊急事態等に準備・対処でき、法令等に沿った行動をとることができる。
	40歳代前半	■能力発揮期Ⅱ（21年～） ・自分自身の高い能力や専門性を発揮する。 ・指導的教職員として、学校や地域全体の教育力のレベルアップ、人材育成に貢献する。	地域や保護者への対応力	地域や保護者等のニーズに応えるとともに説明責任を果たすことができる。
			組織や学校経営への貢献	経営ビジョンに沿って目標を決め、組織の業務に参画することができる。
			企画力	担当の校務分掌等において目標達成の企画・立案をすることができる。
ベテラン教職員	40歳代後半以上	■能力発揮期Ⅱ（21年～） ・自分自身の高い能力や専門性を発揮する。 ・指導的教職員として、学校や地域全体の教育力のレベルアップ、人材育成に貢献する。	リーダーシップ	担当業務に応じて同僚や若手職員を動かすことができる。
			若手教職員の育成	若手教職員に対して適切なアドバイスを行うことができる。
			幅広い知識・教養	新たな知識等の習得に取り組み、幅広く教養を身に付けようとしている。
			高い授業力	指導計画等の準備や目標達成のため授業を工夫し、授業後改善している。
			児童生徒理解・指導力	児童生徒と良好な関係を構築し、個性等を理解して伸ばすことができる。
			危機管理やコンプライアンス意識の徹底	緊急事態等に準備・対処でき、法令等に沿った行動をとることができる。